

研究紀要

研究主題

自己の考えを広げ、表現する児童の育成



令和6年3月15日(金)
新座市立新堀小学校

令和5年度 研究の全体構想図

学校教育目標

学ぶ子ども 仲よくする子ども 健康な子ども はたらく子ども

児童の実態

- ①元気がある ②明るい ③あいさつができる
- ④子どもらしさがある ⑤外でよく遊ぶ

教師の願い

- ①忍耐力がない ②苦手なことを避ける
- ③甘えん坊が多い ④自立、自律していない

研究主題

自己の考えを広げ、表現する児童の育成

目指す児童像

【低学年】

自分の考えをもち、表現することができる。

【中学年】

根拠をもって考えを伝え合い、自分の考えを広げることができる。

【高学年】

多様な意見を受け入れ、考えたことを論理的に表現することができる。

手立て1

自己を表現させる

低

自分の考えをもって、理由を説明できるようにする。友達の考えを聞いて、同じところや似ているところ、ちがうところ、付け足すところなどを伝える。話型を使う。ペアの活動、対話をする。質問と応答を入れる。目的意識、相手意識をもつ。

中

話したり書いたりするときに考えに理由を付けられる。型を用意する。語彙力を付ける。日記・作文・スピーチを日常に組み込む。

高

語彙力をつける。作文や日記、新聞スクラップなどで自分の考えをまとめたり要約したりする。

手立て2

他者に表現させる

低

導入単元で、一時間目で意図をもった指導をする。ペアでお互いに話をさせていく中で、質問して答えていく。

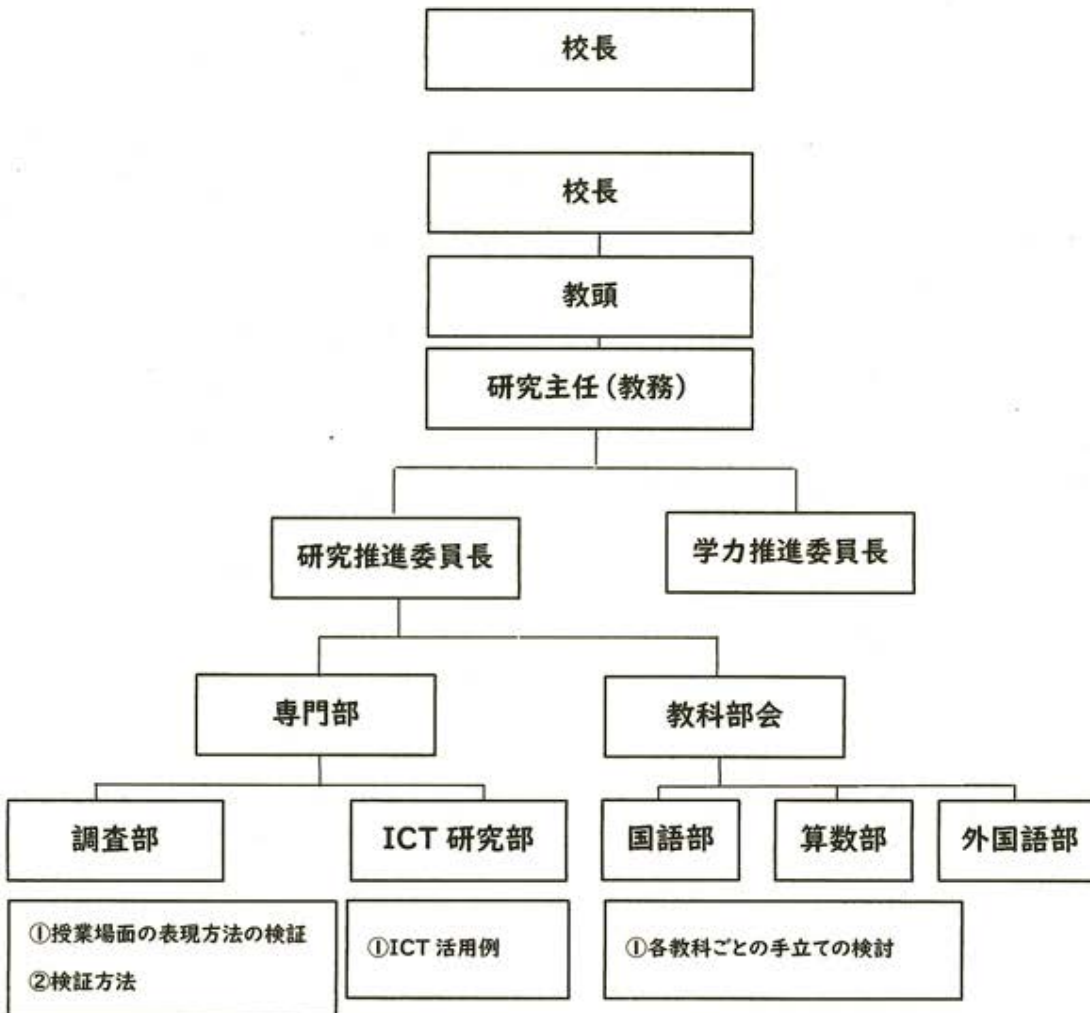
中

聴き方+表現。尋ね方を学ぶことで表現が広がる。話し合いの工夫を学校で作る。聞き上手を増やす。

高

相手に伝わりやすいように話し方や表現の仕方を工夫する。話し合い活動を中心に他者と会話する機会を増やす。

令和5年度 研究の組織図



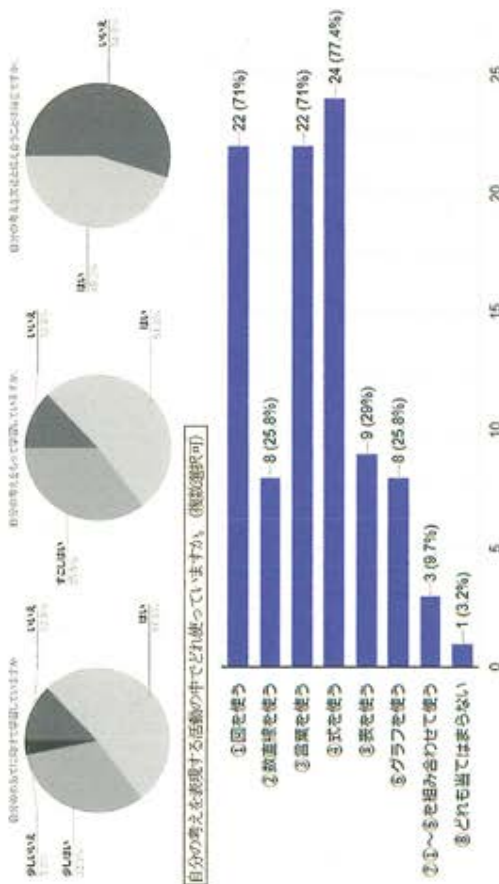
第6学年2組 算数科学習指導案

令和5年6月9日(金) 第5校時
 場所 体育館
 出席児童数 男子20名 女子15名 計35名
 指導者 教諭 馬場 春樹

1 単元名 分数のわり算

2 児童の課題

本単元の児童は、8割の児童が「自分のめあてに向かって学習」したり、「自分の考えをもって学習」したりすることができている。自分の考えを表現する方法として式や図、言葉を使い説明したり、自力解決したりすることができる児童が多い。一方で、「自分の考えを友達と伝え合う」ことは、半数の児童が苦手意識をもっている。



3 単元について

本単元では、小数をかける乗法や小数でわる除法、分数をかける乗法、分数をかける乗法の意味や計算の仕方の理解の上に、比の関係や除法の性質等に着目しながら、分数を分数でわる計算の意味や計算の仕方について理解し、それを用いる力を育てる。数の意味や表し方、計算の性質などに着目し、既習の計算と関連づけながら、新たな数範囲の計算の意味や方法について考える力、及び考えようとする態度を育てる。

【本単元の学習と既習との関連】

第4学年	第5学年	第6学年(本単元)	中学校第1学年
「整数の除法」 ○除法の計算の仕方 ○被除数、除数、商及び余りの間の関係 ○除法に関して成り立つ性質	「小数の乗法、除法」 ○小数の乗法及び除法の意味 ○小数の乗法及び除法の計算 ○計算に関して成り立つ性質への小数適用	「分数の乗法、除法」 ○分数の乗法及び除法の意味 ○分数の乗法及び除法の計算 ○計算に関して成り立つ性質の分数への適用	「正の数、負の数」 ○正の数と負の数の必要性と意味 ○正の数と負の数の四則計算 ○正の数と負の数を用以て表すこと

分数でわる除法と関連して、第5学年第5単元の「小数のわり算」では、除法を整数から小数へと拡張し、整数と同じように除法の式を立てることを学んだ。また、第6学年第3単元「分数のかき算」では、分数をかける乗法

を、小数をかける乗法と同じ「かけられる数を1とみたととき、かける数にあたる大きさを求める計算」として意味づけている。除法を乗法の逆の計算として立式するとき、この学習が支えとなる。

分数と小数は、有理数という同じ数の仲間である。したがって、小数でわる除法で考えたときと同じように、分数でわる除法も考えられる。分数と小数を同じ数の仲間としてみて考える見方・考え方を大切にしたい。

本単元では、どちらがどちらでわるのか、根拠をもつて立式することが難しい。根拠をもつて立式するために、数直線をかき、分数の乗法の学習で身につけた倍の関係を比と比例関係の把握と比例関係に基づいて、xを用いた乗法の式を立て、そこからxを求める除法の式を立てさせるようにする。

4 単元の目標

分数の除法の意味について理解し、その計算の仕方を図や式を用いて考える力を養うとともに、計算の仕方を除法の性質や数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、多面的に粘り強く考えたり、今後の生活や学習に活用しようとしたりする態度を養う。

5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
分数の除法の意味や、分数の除法についても整数の場合と同じ関係を法則が成り立つことを理解するとともに、分数の除法の計算ができる。	除数が分数の場合の除法計算の仕方について、除法の性質や比例の考えを基に考え、数直線や式などを用いて表現している。	除数が分数の場合の除法の意味を捉え直したことや、その計算方法について除法の性質や図や式などを用いて考えた過程や結果を振り返り、多面的に捉え検討してよりよいものを求めて粘り強く考えたり、数学のよさに気づき学習したことを今後の生活や学習に活用しようしたりしている。

6 研究主題について

自己の考えを広げ、表現する児童の育成

7 目指す児童像

分数で表すことの良さを受け入れ、考えた根拠を算数的表現を使って説明することができる児童。

(1)手立て① 自己の考えをもつこと

分数を整数や小数で表したり、小数を分数で表したりし、分数と小数を同じ数の仲間としてみて考える見方・考え方を養う。数直線によっては小数では表せない場合があることや、分数だといつでも表しやすさやことを考えさせ、それぞれの良さに気付かせる。

(2)手立て② 表現すること

分数÷分数の計算の意味や計算の仕方を理解するために数直線を用いて自力解決させ、説明させる。ロイノートを活用し、自己と他者の考えの違いや共通点を見つけ、自己や他者の考えのよさを伝えさせる。

8 指導及び評価計画

時	学習活動	【観点】評価規準
1	①わり算についてこれまで学習してきたことを振り返り話し合うことを通して、未習の分数のわり算について考えようという単元の課題を設定する。(所要時間は10分程度) ②3/4Lのペンキで2Lをぬるとき、1Lではぬける面積を求める。 ③その理由を考え、説明する。 ④除数が分数の場合の除法などを想起しながら、除法の意味を捉え直す。	【知識技能】分数でわることの意味を逆や式を用いて考え、説明している。 【思考判断】分数÷分数の計算の意味や計算の仕方に関心をもち、既習の計算や除法の性質に関連づけようとしていく。

2	① $0.5 \div 3/4$ の計算の仕方を考える。 ② 真分数・真分数の計算の仕方をまとめる。 ③ 計算練習をする。	【知見】 分数÷分数の計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。 【思惟法】 分数÷分数の計算の仕方について、除法の性質や比例の考えを基に考え、数直線や式などを用いて説明している。
3	① $9/14 \div 3/4$ の計算の工夫を考える。 ② $8/4 \div 6/5 \times 1/5$ の計算の仕方を考える。 ③ 計算練習をする。	【知見】 途中で約分できる分数の除法計算や3口の分数の乗除混合計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。 【思惟法】 計算の途中で約分すると簡単に処理できることによさに気づいている。
4	① $4 \div 9/2$, $2/3 \div 3$ と $1/5$ の計算の仕方を考える。 ② $2 \div 1$ と $1/3$ と、 $12 \div 2/3$ の計算をして、商と被除数の大きさを比べる。 ③ 真分数でわると、商が被除数より大きくなることをまとめる。	【知見】 整数÷分数、帯分数の除法計算の仕方を理解し、答えを求めることができる。 【思惟法】 1を基準とした被除数の大小に着目し、被除数と商の大小関係について、数直線を用いて考え、説明している。
5	① $7/8$ の重さが $2/9$ kg のホースについて、ホース $1m$ の重さ、及び $4/9$ ホース $1kg$ の長さを求める式を、数直線を活用しながら考える。	【知見】 問題場面にあった除法の立式の根拠について、数直線を用いて考え、説明している。
6 采時	① $3 \div 3/2 \times 3$ の計算の仕方を考える。 ② 他者の考えを読み取り、図や式に表す。 ③ 間違った計算を正し、計算の順序を振り返る。 ④ 分数、小数、整数の混じった除法計算の仕方をまとめる。 ⑤ 計算練習をする。	【思惟法】 分数、小数、整数の混じった除法計算の仕方を考え、説明している。
7	① $2 \div 2/3 \times 3$ の計算の仕方を考える。 ② 「たしかめよう」に取り組む。 ③ 「つなぐ」で「こう算数の目」に取り組む。	【知見】 基本的な問題を解決することができる。 【思惟法】 数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。 【思惟】 単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。

9 本時について

(1) 本時の目標

○除法の性質について考え、説明することができる。(思考力、判断力、表現力等)

(2) 展開

学習活動	教師の発問 (◎) 予想される児童の反応 (○)	評価基準 支援 (→) 指導上の留意点 (○) 0 研究の手立て	時間
1 問題を把握する。	$0.3 \div 32 \times 3$ の計算のしかたを考えよう。		10
2 学習課題を設定する。	◎ 今までの学習との違いはありますか。 ・一つの式の中に、小数、分数、整数がまじっています。	○ 小数、分数、整数がまじっていることに気付かせる。	
3 自力解決させる。	【小数にそろえる】 $0.3 \div 32 \times 3 = 0.3 \div 1.6 \times 3$ $= 0.2 \times 3$ $= 0.6$	○ 式をもとに自分の考えを書かせる。 ○ 分数、小数、整数はそれぞれ他の数の形で表せることを、児童が必要に応じてヒントカード等で確認できるようにする。	28

4 それぞれの考え方を話し合い、よさに気づく。	① 一つ一つの自分の考えをもつことができたら、他の計算のしかたも考えてみましょう。 ・小数に揃えることによって、計算の手順が少なくて済みます。 ・分数に揃えることによって、全てかけ算で表すことができます。 ・分数に揃えることによって、途中で約分ができ、計算間違いが減ると思います。	○ 自分の考えをロイノシートに書き出させる。その際、目印を付けさせ、教師や他の児童が分数、分数のどちらに揃えたかを判別しやすいようにする。 ○ 複数の考えが出せるように価値付ける。 ○ 同じ考えをもつ人や異なる考えをもつ人同士で話し合わせ、それぞれの考えのよさを見つめるよう指示する。
5 本時のまとめをする。	小数、分数、整数のまじったかけ算、わり算は、小数や分数にそろえて計算するよとい。	○ 分かったこと、考えたことなどをふり返らせ、向上したことや学びのよさを確認・実感できるようにする
6 適用問題に取り組む。	◎ $0.21 \times 7 \div 4.2$ と $4.2 \div 3 \div 0.35$ を今日学習した方法で計算してみましょう。	○ 分かったこと、考えたことなどをふり返らせ、向上したことや学びのよさを確認・実感できるようにする
7 本時の学習のふりかえりをする。	◎ 今日の学習で分かったこと、考えたことを書きましよう。 ・分数、小数、整数がまじったかけ算、わり算では、小数や分数にそろえると計算しやすいことがわかった。	○ 分かったこと、考えたことなどをふり返らせ、向上したことや学びのよさを確認・実感できるようにする

(3) 板書計画

◎ $0.3 \div 32 \times 3$ の計算のしかたをまとめるよ。	児童の考え	◎ 小数、分数、整数のまじったかけ算、わり算は、小数や分数にそろえて計算するよとい。 また、問題によっては分数の方がよいこともある。
これまでとの違い 分数、小数、整数がまじっている	児童の考え	
◎ 分数、小数、整数のまじったかけ算、わり算は、小数や分数にそろえると計算しやすいことがわかった。	児童の考え	
・ 32 を小数にする		
・ 0.3 を分数にする		

校内研修 算数科研究授業 協議記録

〈授業反省・質疑応答〉

馬場 ・分教に揃えるということはすぐに出てきたが、小教に揃えるというやり方が出なかったの
で、既習事項の確認を最初に行った。

- ・今回も小教が出にくかったので、少し強引に持ってしまいましたか
- ・時間がながったため、整数に揃えるという方法を児童が出していたが取り上げることができ
なかった

(研究協議)

視点①考えを持った根拠を説明できていたか

視点②どのような発問(課題の与え方)や捉えさせ方をすれば、より考えが深まる授業になるのか

A グループ

- ・最初の表があったのがわかりやすかった
- ・計算するときにキーワードを結構先生側が言っていたが、もつとあっさりした発問でも良かった
のではないか。
- ・ロイノートで提出をさせたのもう少しお互いに見合う時間をとっても良かったのではない
か。

B グループ

- ・丁寧に既習の確認をしていたが良かった。
- ・そろえるという言葉はまよめの段階で行っても良かったのではないか。
- ・小教の考えが出ないのであれば、分教で一旦まとめてしまい、そこから交流で他の方法ははないか
聞いても良かったのではないか。

C グループ

- ・既習事項の確認をすることで低位の児童でもやりやすそうだった。しかし一方で情報を与えず
て考えが一つになっただけになってしまった。揃えるという言葉はあとでも良かったのではない
か。

- ・話し合いの場をもっと興味してもよい。

D グループ

- ・みんなに見せる意識を持ってノートに書き込めていた。
- ・子どもたちのノートを見ても式だけになっていたので考えを書かせても良かったのではないか。
そろえるという言葉が出てしまうとあとの気づきがなくなってしまうのではないか。

〈指導講評〉【十文字女子大学 狩野浩二 先生】

- ・教材研究会を持ったときに、自分が「算教ができない子はいっているのか」と言ってしまったのが原因
だと思ふ。先生にプレッシャーを与えてしまった。
- ・教材に切実感がない。
- ・教育方法上の工夫をしてほしい。例えば誤りや誤答が出たならなぜ間違えたのかをみんなで考えさせ
る(想像説明)などをしてほしい。想像説明とは、第三者の考えを想像して説明すること。これによっ

て複雑なコミュニケーションができるのではないか。小教の場合を友達の身になって考えられている
た。

- ・子供たちは必死に解いていた。教職員との関係性ができている。

〈指導講評〉【デポール大学高橋 昭彦 教授】

なぜ授業研究をするのか。教科書のことをそのまま教えても、学習指導要領の狙い通りの学習内容になる
とはかぎらない。つまり自分は教科書をクラスでこのように教えますと伝えるのと同じことである。

そしてお互いに見合うことで、教科書の内容から指導内容を変えて指導する力がついてくる。自分の教
室で自分だけでやっても力はつかない。さらに話し合う中で、今日の授業では何が大切なのかを探し、次の
授業に活かすことで積み上げてほしい。

今回の授業では、分教と小教は出てきたが、教科書にのっている解答についての取り上げても良かった。ま
た、今回のまとめを覚えていくが、なぜ変えたのか根拠を指導案から読み取れるようにする必要はある。

(成果と課題)

○既習学習の振り返りが丁寧で子供たちが活用することができていた。

○自力解決の時間が確保されていたので、自己の考えをもっていた。

△算数的表現を使っていない児童もいた。

△解答の取り扱い扱いは、学習の内容によるため要検討

△多様な考えをどのように出させるか。

例：問題提示のあとすぐに自力解決させる。 普段の授業での経験、価値付け。

△普段から既習を振り返る経験をさせる。

第4学年1組 国語科学習指導案

令和6年2月7日(水) 第5校時
 場所 4年1組 教室
 在籍児童 男子11名 女子13名 計24名
 指導者 教諭 小林 久乃

- 単元名・教科材
 科学読み物を読み、興味をもったところを中心に3年生にしようかいしよう「ウナギのなぞを追って」
- 児童の姿態と本単元の意図
 これまでに児童は、「アップとルーズで伝える」で、段階相互の関係や文章と写真の関係をとらえ、筆者の考えをとらえる学習を経験してきた。また「世界にのこる和紙」では、中心となる語や文を見つけて要約する学習にも取り組んできた。

3年「ありの行列」
 ・段落どうしのつながりに気を付けて読み、互いの共通点・相違点に注意しながら感想を伝え合う。

4年
 「思いやりのデザイン(アップとルーズで伝える)」
 ・文章構成や段落どうしの関係を確かめ、筆者の考えをとらえる。
 「要約するとき」・要約の方法を知る。
 「パンフレットを読もう」・作られた目的や対象を踏まえて、必要な情報を中心に読む。
 「世界にほころ和紙」・まとまりごとに中心となる語や文を確かめ、要約する。

本単元「ウナギのなぞを追って」
 ・興味をもったところを中心に要約し、文章に対する感じ方の違いや良さを考える。

5年「想像力のスイッチを入れよう」
 ・事例と意見の関係を押さえて読み、自分の考えを明確にして伝え合う。

本単元で身につけさせたい力である「中心となる語や文章を選んで要約する力」は6割程度の児童が身につけている。児童は11月に実施した「世界にほころ和紙」の本文全体の要約に取り組んだ。筆者の考えをとらえ、各段落から中心となる語や文を見つけることが難しい児童もいた。そのため、ヒントカードを渡し自力で見つけることができるように促し、そのあと全体で確認した。児童が「興味をもったところ」を中心に要約していく。また「文章を読んで理解したこと」に基づいて、感想や考えをもつ力は、8割程度の児童が身につけている。本単元では、自分が興味をもったような女の子について、自分はどう思ったのか、文章を要約し、既習事項を生かして感想や考えをもつことができるようにする。また、並行読書で科学読み物を読んでいく。その中から本を選び自分の興味をもったところを中心に3年生に紹介するという単元目標を設定することで、読み手を意識して取り組むことができるようにする。

本単元の目標である「科学読み物を読み、興味をもったところを中心に3年生にしようかいしよう」は、小学校学習指導要領国語編3・4年の【思考力、判断力、表現力等】内容項目C読むことの手導事項ウ 精査・解釈とカ 共有にあたる。これらは、小学校学習指導要領国語編によると以下の通り示されている。

ウ 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約すること。
 第1学年及び第2学年のウを受けて、目的を意識して、アの指導事項で扱った文章の構造や内容を基に、必要な情報を見つけて要約することを示している。
 要約するとは、文章全体の内容を正確に把握した上で、元の文章の構成や表現をそのまま生かしたり自分の言葉を用いたりして、文章の内容を短くまとめることである。文章の内容を端的に説明するといった要約する目的を意識して、内容の中心となる語や文を選んで、要約の分量などを考えて要約することが重要である。

カ 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くこと。
 第1学年及び第2学年のカを受けて、考えを共有したり、互いの感じ方などの違いに気付いたりすることを示している。
 文章を読んで感じたことや考えたこととは、文章の構造と内容を把握し、精査・解釈することを通して、感想をもったり考えたりしたことである。これらの感想や考えは、同じ文章を読んでも文章のどこに着目するか、どのような思考や感情、経験と結びつけて読むかによって、一人一人に違いが出てくる。

これら共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くとは、同じ文章を読んでも、一人一人の感じ方などに違いがあることに気付くとともに、互いの感じたことや考えたことを理解し、他者の感じ方などのよさに気付くことが大切である。

そこで本教材「ウナギのなぞを追って」では、興味を中心に必要な言葉や文を選んで要約し紹介文にまとめる。そして、学習を生かして自分が選んだ科学読み物の興味のあるところを中心に要約し、3年生に紹介する。

- 単元の目標
 (1) 様子や行動を表す語句の量を増し、語や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。
 (知識及び技能) (1)才
- 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。
 (思考力、判断力、表現力等) (1)才
- 文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。
 (思考力、判断力、表現力等) (1)才
- 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。
 (思考力、判断力、表現力等) (1)ウ
- 文章を読んで理解したことに基づいて、進んで感想や考えをもち、学習課題に沿って、読み物を紹介する文章を書くこととする。
 (学びに向かう力、人間性等)

- 単元で取り上げる言語活動
 科学読み物を読み、紹介する文章を書く。(関連：言語活動ウ)
- 研究主題について
 自己の考えを広げ、表現する児童の育成

本単元の学習を通して目指す児童像
 多様な意見をもとにして、自分の考えを表現することができる。

- 手立て① 自己の考えをもつこと
 1) 学習課題への目的意識
 文章の中で興味をもったところを中心に要約し、友達や3年生へ紹介する学習課題を設定する。目的意識をもたせて活動に取り組むことで、文章を読んだことがない人にも分かりやすく要約し、文章を読んで自分がどう考えたのかを表現しようとする意識が高まると考える。
- 対話活動の充実
 対話の目的や視点を提示し、「何のために話し合っているのか」目的意識をもって対話ができるようにする。また、児童同士学び合いができるように意図的にグループ構成を行う。
- 振り返りの充実
 毎時間、学習課題に基づく活動ができたかどうか、振り返る時間を設ける。振り返りは「わかったこと、できたこと」と「わからなかったこと」「次の時間に考えたいこと」の視点から、自分の学習の学びを具体的に振り返ることができるようにする。

7 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>様子や行動を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(C1) (オ)</p> <p>① 「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約している。(C1) (ウ)</p> <p>② 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基いて、感想や考えをもっている。(C1) (オ)</p> <p>③ 「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C1) (カ)</p>	<p>文章を読んで理解したことに基いて、進んで感想や考えをもち、学習課題に沿って、教材文を紹介する文章を書こうとしている。</p>	

8 指導と評価の計画 (全10時間版)

時間	主な学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	並行読書
1	○教師が作成した科学読み物の紹介カードを読み、学習課題について話し合う。	○学習課題の確認	○モデリングを見て、学習の見通しがもてるようにする。	
2	○興味をもったところを話し合い、文章構成を確認する。	○文章の構成や読み方	【思考・判断・表現②】 記述 興味をもったことを明確にしながら、感想を書いているか確認する。	
3	○各段落の主な内容や相互関係を調べ、まとめる。	○各段落の内容や相互関係	【知識・技能】 記述 内容のまとまりごとに大切な言葉を記述しているか確認する。	
4	○興味をもったこととそこで大事な言葉や文を調べ、まとめ	○大事な言葉や文の確認	○前時を生かして、興味を持ったことを中心に大事な言葉や文を見つけられるようにする。	
5	○「何の話か」「要約」「感想」の構成で教材文の紹介カードの下書きをする。	○紹介文の書き方	【思考・判断・表現①】 記述 構成や文字数を意識して、必要な言葉を選んで要約しているか確認する。	
6	○紹介カードの内容を見直し、要約するための言葉や文の選び方のポイントを話し合う。	○要約するための言葉の選び方	【思考・判断・表現①】 記述 目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約しているか確認する。	
7	○前時で学んだことを生かして、紹介カードを書き上げる。	○必要な言葉を入れた清書の仕方	【思考・判断・表現③】 記述 感じ方の違いについての記述を確認する。	
8	○教材文で学んだことを生かし、互に入った科学読み物を読み、紹介カードを作成する。	○紹介カードの書き方	【主体的に学習に取り組む態度】 記述 文章を読んで理解したことに基いて、自分で選んだ本を紹介する文章を書こうとしている。	
9	○学級の友達と紹介カードを読む。	○友達との感じ方の共通点・相違点	【思考・判断・表現③】 記述 感じ方の違いについての記述を確認する。	
10	○学級の振り返りをする。			

時	○3年生に読んでもらおう。	
外		

9 本時の学習指導 (本時6/10時間目)

(1) 目標

目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができる。

【思考・判断・表現】Q11少

(2) 評価規準

興味をもったところを伝えるために、自分が選んだ言葉や文を見直すことができる。

(3) 展開

学習活動	学習内容	指導上の留意点・評価	時間
1 前時を振り返り、本時の学習課題を知る。		【】 研究の手立て ○前時までの学習を想起させ、本時の学習課題を設定する。	5分
2 教師が提示した紹介カードを比較し、興味をもったところが伝わる理由について考える。	○紹介カードの比較	きょうみをもったところが伝わる要約のポイントは何か。	33分
<期待される児童の反応> ・興味のあるところと関係のある言葉が入っているから。 ・「平明」という言葉があるから。		○二つの要約部分を比較し、どちらがより興味をもったところが伝わるか考える。 ○「はじめ」と「おわり」の部分は同じ文章であることに気付かせ、興味をもったところと要約との関係について考えさせる。 ○自分の考えに自信をもって伝えられるように、ペア学習を入れ全体学習につなげる。	
3 考えたことを全体で共有し、学習課題に対する考えをまとめ	○要約に必要な言葉や文の選び方	○「感想」という言葉が出てきたら、課題に戻り「興味をもったところ」に焦点化する。	
4 自分の興味をもったところが伝わるように、要約の言葉や文を選び返す。	○言葉や文の選び方	○興味をもったところに関係のある言葉かどうか確認し、選ぶことを押さえる。 ○一人で要約を見直す時間をとり、その後、児童同士で紹介カードを読み合う。 ○話し合いの中で、意見の付け足しや考えを変更してもよいことを伝える。	

<p>5. 先生方が作成した「ウナギのなぞを追って」の紹介カードを読み、興味をもったところが伝わるか話し合う。</p> <p>【手立て① 自分の考えをもつ】 記述、発音 十分理解している児童(A)の興味のあるところに着目し、理由をもって必要な言葉や文を選んでいく。 【「努力を要する」状況(C)への手立て】 興味のあるところと一緒に確認し、関係のある大切な言葉や文を見つけていくように促す。</p>	<p>○言葉や文の選び方</p>	<p>○ロイロノートを活用し、自分の考えを書き込めるようにする。</p>
<p>5 本時の振り返り 次時への見直し</p>	<p><期待される児童の振り返り> ・大切な言葉を入れて、分かりやすく書くことができた。 ・他の友達にも読んでもらいたい。</p>	<p>○学習課題に沿って振り返る。 ○本時を「わかったこと」「できなかったこと」「次の時間考えたいこと」の視点で振り返らせる。</p>

(4)板書計画

③

きょうみをらなところも興味のある言葉や文を導ぶことが大切である。

④

紹介カード例

⑤

きょうみをもつたところが伝わる
語彙のポイントは何だろうか。

⑥

ウナギのなぞを追って

科学読み物を読んだところから
きょうみをらなところも興味のある
言葉や文を導ぶことが大切である。

校内研修 国語科研究授業 協議記録

〈授業者反省〉

指導案を変更した理由

振り返りから課題につながらなかった

事前授業 4 話し合いのめあての明確化をはっきりできなかった。ペアではなく、自分で見直し形にした

反省 設定するゴールが難しかった

興味をもったところを中心に要約する＝感想 でない子が多かった

もう少し改善の余地があった 段落相互の関連を見ながら書く

質問 Q グループ分けの視点・留意点は？

A 興味をもったところが同じ人でグループを編成した。

Q 先生たちの見本を読む時は？

A 同じものがなかったら、グループでどの先生にするのかを選んで読んでいた。

熊倉 ゴリラ ドラミング・凶暴性の2種類の文

興味をもったところを強調してから2つの文を見せた方が良かったのではないか。

興味をもったところを伝えたら児童がなかなかつなげてなかった

金子 黒板の掲示物◎ グループ分け◎ 授業の中で自分の意見をもち時間もつたりもってていた

信太 学習の積み重ね (教室内の掲示物) 児童の意欲的な姿勢◎ 意識がとも高かった。

宮城 普段の授業から話し合いがやんちゃとできています。手立てにそって授業が行われていた。

発言が苦手な子でも授業で話すことができていた、興味をもって授業に参加できていた。

どこがよかったのか、数字・場所を伝えることでより分かりやすくなるという意見が出ていた◎

國原 先生の紹介カード→下手くそな文章 しておいて添削すると思ふ。

要約をするのにハードルが高い、自分の興味をもったところを要約するということは児童が取り組みやすかった。

花岡 レベルが高いことをやっていた。自分の考えをまとめ→修正→先生の添削→自分のフィードバックをしていった。小林先生が意図していたことが次の授業でちゃんと形になっていくのか確認しなければならぬ。

教室の掲示物などの良さ、デジタルの良さうまく使えていた。後半のものが児童のスキルとして身に付いたのか、これを次にするために力をつける (こういう声かけをした方がよかったのか)

工藤 流れをできていた、推敲とかの視点

興味をもったことを線引く→もっと教科書のこの言葉を使った方がいいんじゃないかとやっていた方がよかったのではない。

信太 自分の読み物を振り返り返った時も、言葉に注目しながらできていた。

キーワードに着目してできていたの、読むことができていたのかな。

工藤 読むと関連してもよい 読むの評価をしても大丈夫

花岡 あれだけかけているから読めていと思う まちんと読んでた上での要約ができてい

金子 書くことよりよみ取れたいたのかなと感じた。

〈指導講評〉【新座市教育委員会 学校支援課 指導主事 佐久間 雄一先生】

【読むこと・書くこと】

推敲の指導事項が入っているかなと感じた。最終的に自分の要約に生かしていくのであれば

(推敲を狙ったわけではない) 問題ない。児童は文法的な・句読点に意識してしまっている児童も多かった。

どういうところに注目するべきか、どんな意図があったのかをはっきりさせる。感想を書かせる時にポイントを

与えるべき

【掲示物】

日々の授業の充実を感じた。学習内容の定着具合が分かる。学年・ブロックの取り組みとして掲示物は非常に効果的

【版書】

模造紙を印刷しなくなってきている。(テレビに掲示してしまう)

前半に行ったものが残ったまま学習できている。構造がよかった。振り返りまでできるとよい。

【質問】

Q 先生が作った紹介カードを出した時に教室が止まった感じがした時のこと

A 発問を切り返した時に児童の顔が? になってしまった

Q 学習活動2・3の時にそうになっていた。なんでこうなったのか?

A 発問をしたのが良くなったのか

どちらが興味もったことを伝えるのかとやり取りをしていた

筆者が何を伝えたいのかという話をした時 ここで児童の教師の思いがはまらなかつたと感じた

要約の目的意識がどこまで浸透しているのか 7時間目以降に確認するべき

うなぎの筆者なのか、紹介をした人の筆者なのか はっきりさせる

自分がきょうみをもったところを相手に伝えたい =目的

これに関連する文章をきゅつとまとめて紹介したいというのか今回の授業 力をつけたいところ 意図としては見えていた 整理をしてあげること児童の学びの方向性がよく理解できたと思う

【5番目の活動を見て感じたこと】

Q 5番目の活動を入れた意図とは？

A 4番だと評価できないので5番を入れた

ブロックの先生が作ったものをどこが興味をもっていたのだろうか?と気づいてほしかった

5番の活動はとても楽しそうにやっていた。助言したいという発言もなごやか 有効的だった

青沼さん→ふせんの書き方を工夫していた 助言をしたところはカードを文章の近くにおいて

自分で学習について工夫できることを指示できればICTのよりよい取り組みが行える

感想を画面に出していたが読めない、画面配信をするなり、感想のところを拡大してみせたり工夫できるとよい。

楽しそうにやっているからこそ、学習の効率を上げたい、ICTをうまく使うべき。
自主的に取り組めていたことを取り上げ、例として見せることがあるとよい。

【やってほしいこと】

導入と終末について

終末

まとめ・振り返りができなかつた部分がある。

児童の言葉でまとめをする、振り返りもまとめに基づいて行うべき。

視点がでている 振り返る時間が必要 評価をする時に材料が足りない(5番しか残っていない)

導入

新座小 児童の個々のめあてを設定させている。1時間で何をやる?自分でめあてをかく

どこまでがんばるのか→学習計画→めあてをかかせる

教師が指導案に書いているものより、長いものがあった。

前時の振り返りから今回のめあてを考えられている

何を学ばせたいのかがとても明確だった →児童に言わせる・書かせる 支援が必要な子が分かる

より自分ができるできないことがわかる メタ認知

自己の考えを持つ となりの子にめあてを言う 書かせる この時間で評価をすること

今日の要約をするところとずれているところにもっていける

第5学年2組 外国語学習指導案

令和6年2月22日(木) 第5校時
 場 所 5年2組 教室
 児童数 男子12名 女子14名 計26名
 指導者 教諭 信太 健一

1 単元名 CROWN Jr.5 Unit3 Lesson6 さがしものは、どこ? (It is in the box.)

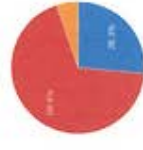
2 単元について
 これまでの学習で、自己紹介、他者の紹介と、英語で伝えられる世界を広げてきた。本単元では、自分たちが住む日本について紹介ができることをねらいとしている。日本について、単なる情報提供にとどまらず、おすすめのところを友達と話し合い、自分とのつながりを持ちながら日本のことを紹介する課題を体験することで、伝える相手ばかりではなく自分自身も、日本に対する理解や着しみを深めることをUnit3のねらいとする。
 Unit3のねらいである「日本のおすすめの紹介する」という目的を達成するために、Lesson6ではものの場所や位置を表す表現を学習する。[in] [on] [by] [under]などの前置詞をチャレンジややり取りの活動を通して、習熟していく。Lesson6の最後には、ものの場所や位置を伝え合う言語活動を設定し、前置詞やもの名前について学習していく。

3 児童の実態について
 本学年の児童は、アンケート2の結果から外国語の学習に意欲的に取り組む児童が多い。一方で、わからないことを解決したいと思えない児童も数名いる。英会話等の習い事を習っている児童は5名いる。しかし英単語の聞き取りが難しい児童が5名おり、聞く技能の習得が大きいことが考えられる。
 また、話す技能について、アンケート1の結果から、ほとんど児童が自分の考えを言うことができるが、3名の児童は、「できない」「あまりできない」と答えている。一方で、アンケート6の結果から、全ての児童が友達と活動することができている。

1 外国語の授業では、自分の考えを言うことができますか。
 18/02/22



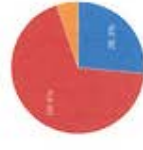
2 外国語の学習の場からわからないことを解決したいと思いませんか。
 18/02/22



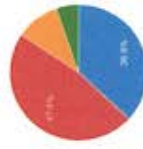
3 イングリッシュエッセイ(体験記)に英語を自分から使おうとしていますか。
 18/02/22



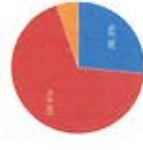
4 外国語の学習で、友達と意見を交換できますか。
 18/02/22



5 外国語の学習で、友達と話したときと比べて話したい内容を書き取りますか。
 18/02/22



6 外国語の学習で、友達と話をすると共に、自分から相手に伝えようとしていますか。
 18/02/22



4 研究主題について

自己の考えを広げ、表現する児童の育成

5 目指す児童像

他者との言語活動を通して、自分の考えを簡単な語句を用いて表現することができる児童

(1) 手立て① 自己の考えをもつこと

自己の考えをもたせる手立てとして、ロイノノートによる ICT 教材を活用する。本単元で使用する ICT 教材は、グループワーク、家族の写真など児童一人ひとりが思い思いのアイテムを自由に配置し、個人が設定した宝物を英語で探して宝物を聞く教材である。この言語活動を通して、一人ひとりが思い思いの宝物をすることで、自分の思いを相手に伝える目的意識をもつことができると考え、目的意識をもたせることで、自分の考えをもたせることができると考える。

(2) 手立て② 表現すること

表現する手立てとして、単元計画の工夫とワークシートの活用を手立てとする。単元計画の工夫では、単元のゴールに上記の言語活動を設定し、その言語活動に必要なセンテンスや英単語を系統的に学習していく。また、6時間の学習の中で、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」をバランスよく計画し、質・能力を育成する。ワークシートの中で、授業の振り返りするためのワークシートと言語活動の際に使用するワークシートを活用する。授業の振り返りでは、教科書に合わせたマイノートを使用し、めあてに沿った振り返りをして、評価のための表現力を見取る。言語活動の際に使用するワークシートでは、本時の重点である前置詞を使ってやりとりできたかを自己評価させ、指導に生かすための表現力を見取る。

6 単元の目標

- ・もの位置や場所について伝える語句の意味や働きを理解し、どこにあるかなどを伝えたり、伝え合ったりすることができる。
- ・友達にももの位置や場所について簡単な語句や表現を用いて、どこにあるかなどを伝えたり、伝え合ったりする。
- ・友達にももの位置や場所について簡単な語句や表現を用いて、どこにあるかなどを伝えたり、伝え合ったりする。

7 単元の評価規準

(本単元における「話すこと」「読書」及び「聞くこと」、「書くこと」については、目標に向けて指導は行わず、本単元内で記録に残す評価は行わない)

読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	<p>[知識] それまで学習した語句や表現の意味や発音を理解している。</p> <p>[技能] それまで学習した語句や表現を見て、その意味や発音をとらえる技能を身につけている。</p>		<p>自分や相手のこと、身の回りのものに關する事柄について書かれた開いたことのある簡単な語句や基本的な表現を見つけて、イラストや音声を頼りにその意味をとらえようとしている。</p>
話すこと [やり取り]	<p>[知識] ① [in] [on] [by] [under] などの前置詞について語句の意味や使い方に理解している。</p> <p>[技能] ② [in] [on] [by] [under] などの前置詞を用いて、もの位置などを伝える技能を身につけている。</p>	<p>① 自分の考えをよく知ってもらったり相手の考えをよく知ったりするために、相手の立場に寄りやすく話したり、相手の話をよく聞いていたりして伝え合っている。</p>	

8 単元計画 (6時間版)

時	◆目標・活動	評価	
		加	減
1	◆ものの場所を尋ねられて、どこにあるかを答える語 (in, on) や表現に気づき、理解して使う。 ○Sound Chant ○パノラマ, Spotlight, Spotlight ○活動①・1・2 ○Story	◎評価規準<評価方法>	
2	◆『幸福の王子』の話を、イラストを見ながら聞いて、概要をとらえる。 ○Sound Chant ○パノラマ, Spotlight, Spotlight ○活動①・3, ② ○Story		
3	◆ものの場所を尋ねられて、どこにあるかを答える語 (by, under) や表現に気づき、理解して使う。 ○Word Chant ○パノラマ, Spotlight ○活動①		
4	◆音声を聞き、イラストを頼りに英語を読む。 ○Word Chant ○パノラマ, Spotlight ○活動②・1, 2 ○Enjoy Reading	◎自分や相手のこと、身の回りのものに関する事項について書かれた聞いたことのある簡単な語句や基本的な表現を見て、イラストや音声を頼りにその意味をとらえている。<フォォーマンス・振り返しシート>	
5	◆ものの位置を表す前置詞を書き写す。 ○Word Chant ○パノラマ, Spotlight ○活動① ○Write & Speak		
6	◆ものがどこにあるのか、尋ねたり答えたりする語句や表現に気づき、理解して使う。 ○Songs and Chants ○パノラマ, Spotlight ○宝物探しゲーム	◎場所について伝える語句や表現の意味や働きについて理解し、その場所がどこにあるかを伝えたりする技能を身につけている。<行動観察・振り返しシート>	





9 本時の展開

目標: ものがどこにあるのか、尋ねたり答えたりする語句や表現に気づき、理解して使うことができる。

準備: デジタル教材・子歌、児童用テキスト・テキスト、絵カード・絵か、振り返しシート・振り返し

○本時の展開 (6/6)

時間	○児童の活動	・指導者の活動	◎評価<方法>	評価
----	--------	---------	---------	----

5分	○Opening routine ○挨拶をする。 ○ルーティン Q&A をする。 ○Songs and Chants [On In By Under Word Power Learn English Punkfong Songs for Children.]  【 https://www.youtube.com/watch?v=AB1gUwvQ 】	・Today's leader を中心に開始の挨拶をする。 T: [Today's leaders. Come here.] S: [You can stand up.] [good afternoon Mr Shida.] [How are you doing?] [please have a seat] [What day is it today?] [What's the date today?] [How is the weather today?] ・Rules を確認する。 T: [Let's check English 3 rules.] [I have 3 questions.] S: [Yes, I do. / No, I don't.] [eye contact] [clear voice] [smile] ・デジタル教材に合わせて歌う練習させる。 T: [Let's chant!]	ア教
30	○めあてを知る。 in, on, by, under を使って、自分の宝物を伝え合おう。 ○パノラマ, Spotlight, Spotlight に取り組む。   	・教科書 P82 のパノラマ, Spotlight, Spotlight を聞き取ったり、発音したりし、音読活動のキーセンテンスを練習させる。 ・EET に続いて発音させる。	絵か ア教 アキ スト

STEP **LESSON 9**

It is in the box.

さがしものは、どこ？
● 絵の中のものをさがしなさい。

Panorama 絵の中のものをさがしなさい。Look at the Panorama. Look.

Part 1

Listen & Talk

Spotlight みんなで読んでみましょう。

A It is on the table.
B It is in the box.
C It is in the box.

1. 10ページと20ページの絵を見比べて、動物やものをさがしなさい。動物はなまえを、植物はなまえを、物もなまえを、書きなさい。

Sound Chart

horse	fish	spider	jump rope	hot dog
dog	bird	octopus	pencil	on the rock

Story **The Happy Prince**

お話をよんで、絵の中の動物や植物、物をさがしなさい。動物や植物、物のなまえを、書きなさい。

1. 絵の中の動物や植物、物をさがしなさい。動物や植物、物のなまえを、書きなさい。

Part 2

Listen & Talk

Spotlight みんなで読んでみましょう。

A Put the hat by the box.
B Put the hat under the hat.
C Put the hat under the hat.

1. 10ページと20ページの絵を見比べて、動物やものをさがしなさい。動物はなまえを、植物はなまえを、物もなまえを、書きなさい。

Word Chart

on	by	under	in	by	under
on	by	under	in	by	under

Enjoy Reading

Where is the rat?
It is on the box.

Where is the fox?
It is in the box.

Where is the cat?
It is by the box.

1. 文章を読みながら、動物をさがしなさい。動物はなまえを、植物はなまえを、物もなまえを、書きなさい。

Part 3

Listen & Talk

Spotlight みんなで読んでみましょう。





A Where is Europe? It is in Europe.
B Where is Europe? It is in Europe.
C Where is Europe? It is in Europe.

1. 10ページと20ページの絵を見比べて、動物やものをさがしなさい。動物はなまえを、植物はなまえを、物もなまえを、書きなさい。

Talk to Friends みんなで読んで、動物やものをさがしなさい。動物や植物、物のなまえを、書きなさい。

Write & Speak 書き言葉と話し言葉



1. 下の絵を見て、動物の名前を英語で書いてください。
 下の絵を見て、動物の名前を英語で書いてください。

 rabbit
 coin
 box
 cat

2. 次の文を読んで、動物の名前を英語で書いてください。
 次の文を読んで、動物の名前を英語で書いてください。

The rabbit is _____ the box.
 The coin is _____ the box.
 The box is _____ the table.
 The cat is _____ the table.



1. 次の絵を見て、動物の名前を英語で書いてください。
 次の絵を見て、動物の名前を英語で書いてください。

 monkey
 rabbit

2. 次の文を読んで、動物の名前を英語で書いてください。
 次の文を読んで、動物の名前を英語で書いてください。

The monkey is _____ the rabbit.
 The rabbit is _____ the monkey.



3. 次の絵を見て、動物の名前を英語で書いてください。
 次の絵を見て、動物の名前を英語で書いてください。

 hamster
 rabbit

4. 次の文を読んで、動物の名前を英語で書いてください。
 次の文を読んで、動物の名前を英語で書いてください。

The hamster is _____ the rabbit.
 The rabbit is _____ the hamster.

5. 次の絵を見て、動物の名前を英語で書いてください。
 次の絵を見て、動物の名前を英語で書いてください。

 hamster
 rabbit

6. 次の文を読んで、動物の名前を英語で書いてください。
 次の文を読んで、動物の名前を英語で書いてください。

The hamster is _____ the rabbit.
 The rabbit is _____ the hamster.

校内研修 外国語科研究授業 協議記録

〈授業者反省〉

・ワークシートの活用について、正しく英語を伝えるところは課題。うまく言えていない児童には前置詞に注目して補助をおこなった。

〈研究協議〉

グループA

子どもたちが楽しそうに学習していたところが印象的。

ICTの使い方はどのようにするか。byなどしようできていなかった言葉を使用する工夫が必要。部屋の画像だけでなく、町の中にしてみよう。ワークシートはいらぬのではなぬか。聞かれた方がチェックするなど簡易的にできるような工夫を検討していく必要がある。

Bグループ

活動内容は子供たちにとって楽しいものであった。ICTを活用する必要性が感じられた。掲示物を作ることで子供たちに意識させることができた。byやunderが出にくかった。スマールトークを活用することで学力の向上が望めるのではなぬか。ビンゴカードなどのワークシートで視覚化できた方が意欲につながる。

〈指導講評〉

【新座市 教育委員会 学校支援課 指導主事 相場 健 様】

日本語は使用してよいが、段階的に少なくしていく必要がある。

授業づくりでは、どのような言語材料をどのような目的で設定する必要があるかを考える。

言語活動を中心に技能を身に着ける。インプットをおおくし、最後にアウトプットをおこなう。外国語はコミュニケーション。楽しみながら行う。

【上尾市立平方北小学校長 中島 晴美 様】

相手のことを知るためのコミュニケーションが大切。多様性や新しい発見、インフォメーションギャップが必要。また、リアルな言語活動。必然性をもって授業をつくる。

発話のチャンスをもく作っていたことがよい。英語のシャワーを楽しく体を使って覚える。英語を体を使って覚えることで定着しやすい。子供たちが英語を話すときに安心できる環境づくり。コミュニケーション活動の最後には、できていな児童を助けたり、できている児童を評価したりする。モデリングする児童にやってもらうなど、担任の目で見えていく。ICTの活用はあくまでコミュニケーションのサポートになるような使い方。日々の環境として英語のシャワーやインターナショナルスクールとの交流などの環境整備。評価方法としてポートフォリオやcan do リスト、振り返りシート、パフォーマンステストなどがあげられる。また、学習評価の妥当性・信頼性。学校全体として組織的な取り組みが必要。心の在り方はコミュニケーションの基礎の土台。

ICT の取組

1 ICT を活用した実践報告の作成

小学校・高学年理科 回工

理科及び回工での活用

1 Chromebook 活用のねらい(研究主題との関わり)

- 自身と他者の考えを共有したり、比較したりする
- 作業工程等の共有→指示の効率化

2 事前準備

- (1)ワークシートや作業手順を示した付箋を作成する。(写真①)
※必要に応じて共有ノートを作成し、それぞれのノートに全員が入れるようにしておく。各児童にどのノートに入ればよいか、指示を出す。(写真②)
- (2)資料をノートに写して「送る」にドラッグする。(写真③)
- (3)提出箱を作成しておく。(必要に応じて)(写真④)



3 活用の様子

(1)理科の観察のワークシート



(2)回工の作品の共有



4 活用の効果

- ・容易に考えが比較できる。
 - ・理科室は広いが、板書が見えにくい児童もいるが、手元でやるべきことや手順が確認できる。
- (執筆:新座市立新堀小学校 教諭・花岡 圭治)

小学校・国語科・4年

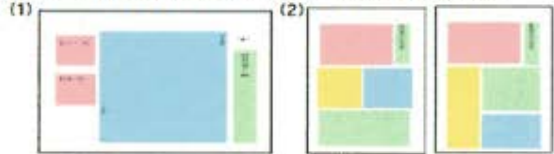
共有のノートで、新聞作り

1 Chromebook 活用のねらい

- 共有ノートを活用することで、一斉に作業することができ時間が短縮できる。

2 事前準備

- (1)各自で作成する記事のワークシートを用意する。
- (2)新聞の割り付け例を2つ提示し、グループごとに選択できるようにさせる。



3 活用の様子

- (1)各自で新聞記事をロイロノートで作る。
 - ・見出し、アンケート結果、写真など大きさや場所などを工夫する。
- (2)共有ノートで、グループごとに新聞を作る。
 - ・全体の新聞を見ながら、自分の記事を整える。
- (3)印刷し掲示したり、ロイロノートで見合ったりして感想を伝え合う。
 - ・他のグループの新聞を自分のペースで読める。



4 活用の効果

- ・一斉に作業ができる。欠席してもオンラインで参加できる。
 - ・手書きの良さもあるので、手書きとロイロノートとで選択できるようにした。
- (執筆:新座市立新堀小学校 教諭・小林 久乃)

2 成果と課題

(1) 実践の充実

成果：ロイロノートの実践集が多く集まった
課題：どの実践がどれくらい活用されているのかわかりにくい

(2) 実践報告のまとめ

成果：なし
課題：成果を基に来年度の指導案に追記する「ICT 活用プラン」を作成したい。

(3) 研究授業との関連

成果：部分的に研究テーマと関連した実践を発表していた。
課題：ICT 部で共通資料を用いて実践発表・紹介をすることができなかった。

3 来年度の活動

- (1)「新堀小 ICT 活用プラン」を作成する。
- (2)全校で積極的に「新堀小 ICT 活用プラン」を活用する。
- (3)来年度の研究紀要に「新堀小 ICT 活用プラン」を明記する。

調査部の取組

1 児童アンケートの実施

(1) 3教科共通項目

1. 自分の考えを言うことができますか。
 2. わからないことを解決したいと思えますか。
- ※回答方法については、選択・記述形式をとった。

(2) アンケート項目

①算数

1. 自分のためだけでなく、友達に向けて学習をしていますか。	はい	少しはい	少しいいえ	いいえ
2. 自分の考えをもっと学習していますか。	はい	少しはい	少しいいえ	いいえ
3. 自分の考えを表現する活動の中で、どれを使っていますか。	①図を使う	②数直線を使う	③言葉を使う	④式を使う
⑤表を使う	⑥グラフを使う	⑦①～⑥を組み合わせる	⑧どれも当てはまらない	
4. 自分の考えを友達と伝えようとは思っていますか。	はい			いいえ

②外国語

1. イングリッシュデーに英語を自分から使おうとしていますか。	している	たまにしている	あまりしていない	していない
2. 外国語の学習で、英単語を聞き取れますか。	ほとんど聞き取れる	聞きたい聞き取れる	たまに聞き取れない	聞き取れない
3. 外国語の学習で、英語で言われたときに、自分から相手に伝えようとしていますか。	ほとんど聞き取れる	聞きたい聞き取れる	たまに聞き取れない	聞き取れない
4. 外国語の学習で、友達と交流するときに、自分から相手に伝えようとしていますか。	進んで伝えようとしている	友達が来れば伝えようとしている	先生に言われて伝えようとしている	していない

③国語

1. 自信をもって伝えられますか。	できる	どちらかといえはできる	どちらかといえはできない	できない
2. 相手に伝え合うときに、相手の言いたいことがわかりますか。	わかる	どちらかといえはわかる	どちらかといえはわからない	わからない
3. 発表や相手の意見を聞いて、思ったことを伝えられますか。	できる	どちらかといえはできる	どちらかといえはできない	できない
4. 物語や説明文を読み込んだ感想を、本文の言葉を使って伝えられますか。	できる	どちらかといえはできる	どちらかといえはできない	できない

(3) アンケート結果

①3教科共通

(3教科共通アンケートの設定時期の割合により、3学級中1学級に調査)

自分の考えを自ら言うことができますか。	事前 「はい」「少しはい」 84%	「いいえ」「少しいいえ」 16%	
	事後 「はい」「少しはい」 85%	「いいえ」「少しいいえ」 15%	1%増加した。
自分の考えをもっと学習していますか。	事前 「はい」「少しはい」 95%	「いいえ」「少しいいえ」 5%	
	事後 「はい」「少しはい」 100%	「いいえ」「少しいいえ」 0%	15%増加した。

②算数

①自分のためだけでなく、友達に向けて学習していますか。	事前 「はい」「少しはい」 84%	「いいえ」「少しいいえ」 16%	
	事後 「はい」「少しはい」 85%	「いいえ」「少しいいえ」 15%	1%増加した。
②自分の考えをもっと学習していますか。	事前 「はい」「少しはい」 87%	「いいえ」「少しいいえ」 13%	
	事後 「はい」「少しはい」 88%	「いいえ」「少しいいえ」 12%	1%増加した。
③自分の考えを表現する活動の中でどれを使っていますか。	事前 図や言葉、式などを使うことを選んだ児童の割合が%		どれも当てはまらない項目に該当する児童が0になった。
	事後 図や言葉、式などを使うことを選んだ児童の割合が%		
④自分の考えを友達と伝えようとは思っていますか。	事前 「はい」 55%	「いいえ」 45%	
	事後 「はい」 56%	「いいえ」 44%	1%増加した。

③外国語

事前	「はい」「少しはい」6.4%	「いいえ」「少しいいえ」3.6%	1%増加した。
事後	「はい」「少しはい」6.5%	「いいえ」「少しいいえ」3.5%	
② 外国語の学習で、英語音を聞き取れますか。			
事前	「はい」「少しはい」7.4%	「いいえ」「少しいいえ」2.6%	1%増加した。
事後	「はい」「少しはい」7.5%	「いいえ」「少しいいえ」2.5%	
③ 外国語の学習で、英語音を聞き取れますか。			
事前	「はい」「少しはい」6.9%	「いいえ」「少しいいえ」3.1%	1%増加した
事後	「はい」「少しはい」7.0%	「いいえ」「少しいいえ」3.0%	
④ 外国語の学習で、友達と交流するときに、自分が相手の伝えようとしていたか。			
事前	「喜んで伝えようとしている」6.3%	「友達が喜ばれれば伝えようとしている」3.7%	喜んで伝えようとして いる児童が 1.2%増加した。
事後	「喜んで伝えようとしている」7.5%	「友達が喜ばれれば伝えようとしている」2.0%	
	「先生に書かれて伝えている」5%	「していない」0%	

④国語

事前	「はい」「少しはい」9.1%	「いいえ」「少しいいえ」9%	1%増加した。
事後	「はい」「少しはい」9.2%	「いいえ」「少しいいえ」8%	
② 相手の伝えよう時に、相手の言いにくいことがわかりましたか。			
事前	「はい」「少しはい」9.0%	「いいえ」「少しいいえ」1.0%	1%増加した。
事後	「はい」「少しはい」9.1%	「いいえ」「少しいいえ」9%	
③ 発表相手の意見を聞いて、思ったことを伝えられましたか。			
事前	「はい」「少しはい」8.6%	「いいえ」「少しいいえ」1.4%	1.4%増加した。
事後	「はい」「少しはい」100%	「いいえ」「少しいいえ」0%	
④ 物語や説明文を読んだ感想を、本文の言葉を使って伝えることができましたか。			
事前	「はい」「少しはい」8.6%	「いいえ」「少しいいえ」1.4%	1.0%増加した。
事後	「はい」「少しはい」9.6%	「いいえ」「少しいいえ」4%	

2 成果と課題

- ICT やワークシートを活用することにより、考えをもたせることができた。
- 自力解決ができるようになってきた。
- 外国語の表現力は上がってきた。
- △ 自分の考えを表現（発表）するとき、ペアやグループでの少人数でできるが、全体に向けての表現になると、戻込みしてしまい、一部の児童になってしまう。
- △ 自分の考えを表現（発表）したことについて、実感が伴っていない児童が多い。

3 次年度に向けて

- ・各教科におけるアンケートで実態調査を行う。
- ・変容の見取りは、個別の間き取りや児童の振り返りで抽出して行う。

研究の成果と課題

成果

・算数、外国語、国語の3教科に絞って研修を行うことで、教科ごとの特性に応じた表現の研究ができた。

・新堀モデルの構築

指導案作成(授業者)→指導案検討①(指導者含む)→指導案検討②(ブロック)→模擬授業→事前授業→本研究授業→協議会

指導案検討を繰り返し行うことで、本研究授業について手立てにそった協議会を行うことができた。どの教員も主体的に取り組めた。

・様々な教科でのICTを効果的に活用する実践を行うことができた。

課題

・外国語：スモールトークなど

・算数：自力解決場面の表現力向上、学力別に応じた表現の手立てなど

・国語：業前に行うスピーチや短時間でやるテーマトークなど

御指導いただいた先生方

十文字女子大学 教育人文学部 児童教育学科 教授	狩野 浩二 様
東京学芸大学 名誉教授	藤井 斉亮 様
上尾市立 平方北小学校 校長	中島 晴美 様

研究に携わった教職員

◎研究推進委員長 ○研究推進委員

【令和5年度】

校長 若林 寿	教頭 池谷 ひろみ	主幹教諭	○花岡 重治
○見澤 卓	佐木 佳奈子	井口 裕美	小山田 沙代
宇梶 優	工藤 俊輔	○小林 久乃	大竹 佳菜
國原 健介	小島 桂子	金子 正央	木村 弥生
○馬場 春樹	山中 雪乃	○斉藤 仁	江原 美穂
宮城 崇	清水 直子	鶴澤 博子	矢吹 雪江
川南 久美子	丹羽 光子	原 伊佐子	平田 泉